

厚生労働科学研究費補助金（免疫・アレルギー疾患政策研究事業）
分担研究報告書

増加する高齢者喘息

研究代表者 谷口正実 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 客員研究部長
研究分担者 福富友馬 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター
診断・治療薬開発研究室長
関谷潔史 国立病院機構相模原病院 アレルギー・呼吸器科 部長
上出庸介 国立病院機構相模原病院 呼吸器内科 医長
渡井健太郎 国立病院機構相模原病院 アレルギー科 医長
研究協力者 劉 楷 国立病院機構相模原病院 呼吸器内科 医師

研究要旨：

背景

- 1) 成人喘息患者における高齢者の割合は急増しているが、その実態に関する成績に乏しい。
- 2) 直接喘息死は減少したが、ステロイド長期使用による、特に高齢者喘息患者における二次死亡や健康寿命低下に関する正確なデータはない。

目的

- 1) 日本人高齢者喘息の臨床背景をレジストリ研究にて明らかにする。
- 2) 日本人の高齢者喘息の合併症や健康寿命低下に影響する因子、特に骨折やフレイルに影響する因子を明らかにする。

方法

- 1) 国立病院機構相模原病院アレルギー科に通院中の高齢者喘息（65歳以上）の臨床背景、合併症、フレイルなどに関して前向きに全数調査を行う（目標 300 例）。
- 2) その成績から、フレイルや併存症（骨折など）に影響する因子を明らかにする。

結果

国立病院機構相模原病院における高齢者喘息患者のレジストリ研究を開始した。

考察・結論

日本人高齢者喘息の実態が本格的に明らかになるだけでなく、重要な課題である生命予後、健康寿命、フレイルの影響する因子が明らかになると予想する。

A. 研究目的

患者における高齢者の割合は急増しているが、その実態に関する成績に乏しい。

背景

- 1) 高齢・長寿化社会を迎え、国内の成人喘息
- 2) 直接喘息死は減少したが、二次的な喘息死

であるステロイド長期治療による二次死亡や健康寿命低下は少なくないと考えられるが（自験成績）、ほとんど明らかにされていない。

目的

- 1) 日本人高齢者喘息の臨床背景を明らかにする
- 2) 特に、日本人の高齢者喘息の合併症や健康寿命低下に影響する因子、特にフレイルに影響する因子を明らかにし、今後の対策や診療に生かす。

B. 研究方法

- 1) 国立病院機構相模原病院アレルギー科に通院中の高齢者喘息（65歳以上）の臨床背景、合併症、フレイルなどに関して前向きに全数調査を行う（目標 300 例）
- 2) その成績から、フレイルや併存症（骨折など）に影響する因子を多変量解析などで明らかにする。

（倫理面への配慮）

該当する研究に関しては、国立病院機構相模原病院倫理委員会の承認のもとで研究を行った。

C. 研究結果

国立病院機構相模原病院における高齢者喘息患者のレジストリ研究を開始した

D. 考察

日本人高齢者喘息の実態が本格的に明らかになるだけでなく、重要な課題である生命予後、健康寿命、フレイルの影響する因子が明らかになると予想する。

E. 結論

高齢者喘息のレジストリを開始した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
特になし